

英語で言いたかったけれど 言えなかった表現を探る

— EasyKWIC 2を活用しよう！ —

日臺滋之 Hidai Shigeyuki
(玉川大学)

1. 日々の授業実践から

筆者は昨年まで中学校に勤務しており、週明けの授業では、週末のことを話題に2人1組になって対話する活動を継続的に行ってきた。部活動に参加している生徒は、きまって週末の対外試合を話題にする。こんな具合である。

A: How was the weekend, Ken?

B: It was a lot of fun. We played a baseball game with Kita Junior High School. We ... (「試合に負けた」はなんて言うんだっけ, loseの過去形のlostだったかな) We lost the game. (2対0で負けたってなんて言うんだっけ)

* ()内は生徒のつぶやきである。

筆者はこのような対話活動のあとには、紙を配り、英語で言いたかったけれど言えなかった表現を日本語で書いてもらい、回収してきた。その後、ALTと、休み時間を活用しながら、英語に直す作業を行ってきた。生徒が知りたい日本語表現と、それに対応する英語表現を1対1であたえ、エクセルを使ってコーパスを作成してきた(参考1)。学習者も便利に活用できるよう、この日英パラレルコーパスのデータを、上田博人先生のご好意で、非常に簡単に検索できるフリーウェア EasyKWIC (参考2) に載せていただいた。本稿では EasyKWIC 2 が学習ツールとしてすぐれていることを紹介したい。

2. EasyKWIC 2のすぐれた特徴

- ・ 例文が全て生徒からの表現や語彙についての質問であり、総数が1,000件以上を超えている。
- ・ 生徒からの質問は繰り返し載せているので、生徒は、どこでつまずきやすいかを知ることができる。
- ・ 検索が容易で中学生が手軽に検索できる。

3. 生徒の反応と今後のこと

中学3年生を対象にコンピュータ室で EasyKWIC 2 を使用し、英文日記の課題に取り組み、使ってみた感想を聞いたところ、大変よい12%、よい50%、どちらともいえない28%、あまりよくない8%、よくない2%であり、過半数は好意的な反応であった。

授業で、文法の導入とその練習に多くの時間を割いてはいるが、実際にコミュニケーション活動を行うと、学習者は、言いたい表現を知らないためにつまずきを感じていることが多い。中学生のつまずき表現にフォーカスしたワーク類(参考3)もあるが、さらなる EasyKWIC の活用を提案したい。

参考(参考文献・参考Webサイト)

1. 日臺滋之(2009)『中学 英語辞書の使い方ハンドブック』明治図書出版
2. 上田博人「簡単な検索プログラム: EasyKWIC」
<http://lecture.ecc.u-tokyo.ac.jp/~cueda/gengo/easykwic/index.html>
3. 日臺滋之, 太田洋(2009)『1日10分で英語力をアップする! コーパスワーク 56』明治図書出版

「～対…」を日本語で検索し、英語表現を表示した結果(下図)

English	日本語 対
The Tigers won the game by 1 to 0.	野球のスコア1 *対0でタイガースが勝った。
We lost the game to Higashi J.H.S. by 3 to 1.	東中学校にその試合は3 *対1で負けてしまった。